

第5回「日本鉄道賞」の受賞者について

【日本鉄道賞】

●富山ライトレール株式会社(富山県富山市)

「地域に密着した安全・安心・快適で環境にやさしい公共交通をめざして」

(選考理由)

我が国初の本格的なシステムとしてのLRTの導入事例である。地元自治体によるまちづくり構想の中で公共交通のあり方を明確に位置づけており、フィーダーバスの運行をはじめ、周辺地域と一体となった整備を進めている。さらに、基金の設置をはじめとした住民参加を促進する仕組みも併せて整備されている。今後の地方都市圏におけるLRT整備のあり方の代表事例となりうる取り組みである。



街の中を走るポートラム

【日本鉄道賞表彰選考委員会特別賞】

①和歌山電鐵株式会社(和歌山県和歌山市)

「地方鉄軌道再生のモデルケースとなれるよう、日本一心豊かなローカル線を目指します。」

(選考理由)

運営していた鉄道事業者により廃止の届出が出された貴志川線について、地元住民が熱心な存続活動を行い、これを受けた地元自治体が新たな事業者が参入しうる支援策を打ち出し、一般公募を実施した。この公募に応じた県外の鉄道事業者は、地元で根ざした事業運営を目指し運行を引き継いだ。地方鉄道の再チャレンジのためモデルとなる取り組みである。



シンボル車両「いちご電車」

②山形鉄道株式会社(山形県長井市)

「1. 沿線住民や高校生が取り組む『マイレール』の確保

2. 地方鉄道を活用し沿線地域の活性化を図る」

(選考理由)

厳しい経営環境にある鉄道事業を地域が「マイレール」として細やかな支援を長年継続した事例である。住民や地元企業による支援、地元高校生による手作り駅舎の建設、地元がロケ地となった映画の特装列車の運行など地元と連携した様々な沿線活性化のための取り組みを行うとともに、車両内における無線LANによるインターネット接続サービスなど新しい利用促進策も実施している。



映画特装列車

[表彰選考委員会による特別表彰]

【日本鉄道賞表彰選考委員会ユニバーサルデザイン賞】

● 東京急行電鉄株式会社(東京都渋谷区)

「『すべてのお客様が、利用しやすい鉄道』のために。」

(選考理由)

世田谷線において、ハード・ソフトの両面から、全ての人に快適で利用しやすい鉄道サービスを提供している事例である。車両の更新や停留所の改良、ICカードの導入等のハード面のみならず、同線の乗務員・案内係全員がサービス介助士資格を取得する等、更に進んだサービスの提供に努めている。



サービス介助士資格を有した職員

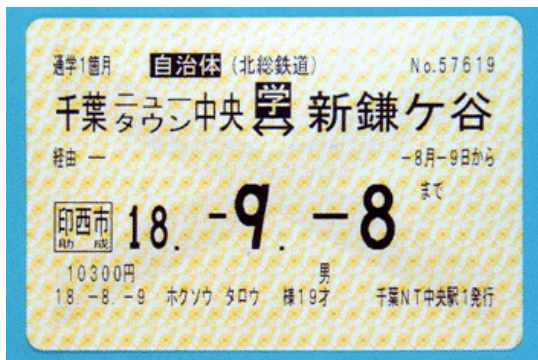
【日本鉄道賞表彰選考委員会子育て支援賞】

●印西市、白井市、印旛村、本埜村、北総鉄道(株)

「子育て支援のため、通学定期運賃の25%を補助」

(選考理由)

沿線自治体が高校生以上の学生の通学定期運賃の一部を補助することで、沿線在住の子育て世帯の負担軽減を実現した首都圏における初の事例である。鉄道利用者が現実増加し、少子化社会における鉄道による子育て支援方策として高く評価された。



自治体補助通学定期券



買い求める学生たち

【日本鉄道賞表彰選考委員会技術賞】

●愛知高速交通株式会社(愛知県愛知郡長久手町)

「我が国初のリニアモーターカー『リニモ(東部丘陵線)』愛・地球博で大活躍」

(選考理由)

「リニモ」は、本格的な公共交通機関としては我が国初の営業運転を実現した常電導吸引型磁気浮上式システムによるリニアモーターカーである。愛知万博では来場者の輸送に貢献しただけでなく、リニモ自体がパビリオンの存在として、新たな技術の実用化事例に対する国民の理解と関心を深めた。



リニモ